

第20回全国農林水産物直売サミット 分科会ゲストスピーカーのご紹介

分科会 ①

直売所の目的と役割を再考する ～新たな食料・農業・農村基本法を視野にして～

(株)産直新聞社 代表取締役 (長野県伊那市)

毛賀 澤 明 宏

長野を拠点に、全国の地域づくりの担い手等を紹介する『産直コペル』(隔月刊)を平成25年から発行する。農産物直売所を軸に、地産地消、地域ブランド、農産加工、SDGsなどをテーマに、日本中の農と食の現場で活躍する人々に注目し、これらの人や情報をつないでいる。中山間地域を支えるのは、直売所を核とした地域農業を担う人達。地域農業を守るため、日本中の中山間地域において直売所や地域振興の支援活動を進めている。

分科会 ②

中山間地域・小さい直売所の経営戦略 ～今、進めるべき支援は何か～

雲南市 農林振興部 農業畜産課 産直振興推進官 (島根県雲南市) 須山 一

JAしまねの職員として、1市2町の約3千人の生産者が18か所の管内直売所に出荷しやすい産直システムを確立させた。栽培技術から商品管理までの実務的な指導と地産都商も手掛ける販売活動は、全国の産直ネットワークのモデルとなる。令和4年より雲南市の産直推進官として、中山間地域の小規模生産者に必要な支援事業を展開。施設栽培や漬物加工の支援、HACCPやインボイス対応の指南などJAとも連携した活動を進める。

分科会 ③

お客様が期待する、直売所のイベント実例 ～コロナ後のイベントのあり方とは～

(株)産直あぐり 取締役 店長 (山形県鶴岡市)

叶野 由 佳

ユネスコの食文化創造都市である山形県鶴岡市に平成9年に生産者主体で開設された人気店。あぐりGAPの創設や活発な加工事業など東北の直売所の先駆的モデルとなる。多品種の果物が売りで、これらの加工品も自社で製造。叶野店長は勤続20年を越すベテラン店長として、生産者とお客様の橋渡し役として売り場で奮闘。令和3年より取締役。昨年新たに発足した生産者の会「ぐんぐん」の企画研修担当が企画するイベント等が人気。

分科会 ④

直売所だからできる、営農支援と農業振興 ～地域の未来を見据えた戦略とは～

(株)たくみの里 代表取締役 (群馬県みなかみ町)

西坂 文 秀

(株)たくみの里を立ち上げ、道の駅たくみの里、果樹観光農園「モギトーレ」、温泉施設の経営改善に奔走中。たくみの里で生産者の収入と集客につながる「わらアート」を新たに仕掛け、多様なフルーツのスイーツを開発し、オンラインショップを強化するなど、新たな挑戦を続ける。現在は、里山テロワール構想として、耕作放棄地でブドウ栽培を開始し、ワイン作りもスタート。農業と観光が手を組み、観光で生じた生ゴミから堆肥を作り、その堆肥で作った農産物を旅館・ホテル・給食などで使用する循環型農業の仕組みづくりも現在進行形で進めている。

分科会 ⑤

直売所が自ら行う、売れる加工品づくり ～商品開発の地域拠点として～

(株)ましこカンパニー／道の駅ましこ 支配人 (益子町) 高橋 裕也

加工品の作り手の高齢化や通年販売できる商品づくりに先手を打ち、道の駅開業前から加工事業に力を入れてきた。地場産物を原料としたオリジナル商品(スイーツ、ドレッシング等)は現在 100 品目を超す。また、町内の生産者に加工施設を貸し出し、商品化に向けた技術指導など伴走支援も行う。小ロットの受託加工や農産物の一次加工も事業の柱となっている。高橋支配人は加工部門の責任者を経て、令和5年より現職。

分科会 ⑥

直売所からの効果的な情報発信とは ～POP・SNS の活用と情報リテラシー～

(株)グリーンデイズ農産直売所あぜみち マーケット開発課長(宇都宮市) 及川 拓人

「誇れる農業を次世代に」をテーマに、宇都宮市を中心に 5 つの直売所と 4 つの量販店内インショップを開設する、今伸び盛りの人気直売所。平成 19 年に創業し、現在の従業員は 212 名、登録生産者は県内全域の約 2,700 名強。「あぜでり」として、旬の農産物を素材として各店で作る総菜も人気。店内の POP 掲示や SNS による店ごとの情報の発信も盛んで、及川課長は現在、全店舗の広報支援の統括を行っている。

分科会 ⑦

生産者が出荷したくなる直売所運営 ～地場産物を売り切る知恵と工夫～

(株)アグリパル塩原 代表取締役／道の駅湯の香しおぼら(那須塩原市) 君島 圭一

直売所の出荷者 103 名が株主となり、令和元年に任意組織を株式会社化。出荷者約 140 名。高原で作る大根・かぶが特産で最盛期には売り場が埋め尽くされる。菓子、おこわ、惣菜、パンも人気商品。加工・カフェ・食堂は全て直営。約 40 名の運営スタッフは役員を除き全員が女性。全部門の業務に通じるように、スタッフの異動は毎年行うなど工夫を進める。君島代表はりんごといちごの生産農家。任意組織の時代からの代表者。

分科会 ⑧

直売所スタッフの人材育成と定着 ～チームどまんなかの行動指針とその実践～

(株)どまんなかたぬま・道の駅どまんなかたぬま 販売事業部部長 (佐野市) 田名 網徹

平成 13 年に開業。佐野市内や近隣県の農産物や特産品などの商品が充実。店内で作られるいもフライやおこわなどご当地の味の菓子や惣菜が大人気。直売所スタッフの多くが野菜ソムリエの資格を有する。バイヤーいち押し商品の宣伝など、約 100 名のスタッフがチームどまんなかとして活発に動く。平成 27 年に小山市内のイオンモール内にどまんなかマルシェを開店。平成 28 年より移動スーパーの「とくし丸」の運行も開始(現在 3 台保有)。